

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

360号

2021年2月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

同盟国への度を越す干渉と駐韓米軍の役割見直し

韓国国会は昨年12月14日、「対北ビラ禁止法(南北関係発展に関する法律改正案)」を可決させた。理由は南北接境地域住民の安全を目的だとしている。これに対して米国内の一部のマスコミと議会内で反対する声が上がっている。ある下院議員は韓国の国会決議について米国議会で聴聞会の開催を言及している。米国国営放送「米国の声(VOA)」などでは朝鮮の核政策に対する制裁に関する報道と同じ量で、文在寅政権の対北政策を批判している。一国の国権の最高機関である国会の決議に対して異議を唱える米国内の動きに、韓国世論は「同盟国への度を越した内政干渉だ」とする声が高まっている。

米国による内政干渉はこれだけではない。2018年4月の南北首脳会談に続き、同年9月のピョンヤンでの2回目の南北首脳会談

が開催された。とりわけ9月の首脳会談では①南北軍事委員会の早期再開と偶発的武力衝突防止緊密協議。②開城工業団地と金剛山観光事業正常化。③離散家族再会問題優先解決。④南北文化交流とオリンピック共同開催協力。⑤核・ミサイル関連施設の永久廃棄措置用意表明など、南北協力関係推進に関する重要な合意が発表された。これは世界が歓迎する快挙であった。

これに対して「韓国、もう単独行動はするな(米國務長官・当時)」「面と向かって不満表出(18/11/21 中央日報)」など売国勢力は、文政権の南北和解。協力政策に対して公開的に批判し、南北問題に関して文政権の手足を縛る目的で「韓

米ワーキンググループ」を稼働させ、事実上の米国による韓国政府への制裁措置によって南北関係は冷え込んでしまった。

これだけではない。バイデン新大統領の「韓日協力」への言及にあわせるように、文大統領は今年の新年辞で1月8日のソウル中央地裁における日本軍性奴隷制被害者原告勝訴の判決に「困惑している」と表現し、日本側への意思表明をしたとも受け取られる内容の発言をした。

米中関係の緊張が高まる中、エイブラムス駐韓

米軍司令官が気になる発言をしている。「駐韓米軍の任務は朝鮮半島の防衛だけではない。インド太平洋地域の安定化支援も含まれている(VOA 1/8)」。5日に開かれた韓米研究所での記者会見では「自分は韓米連合司令官、国連軍司令官、駐韓米軍司令官の任務を同

時に行っている。米連邦法典10条により、駐韓米軍はインド太平洋司令部のもと、準統合司令部として存在しており(中略)対中国戦力と連携して任務を遂行する」と語った。

米軍駐留経費分担金(韓国版「思いやり予算」)を約10億ドル足らず韓国が負担し、さらに負担を増やすよう求められている韓国国民にとっては厄介な問題であり、駐韓米軍の存在が国民的負担になりつつある。韓国の市民団体は駐韓米国大使館前で不当な内政干渉を糾弾し、米軍の撤退を求めるデモを行っている。ベトナム参戦の悪夢を繰り返す愚行を食い止めるための行動が切実に求められている。(鐵)



▲米国内政干渉中止などを訴える韓国民衆

【翻訳資料】

キャンドル市民の一員として、
李明博・朴槿恵の恩赦は断じて許しません

共に民主党の李洛淵(イ・ナギョン)代表が切り出した李明博、朴槿恵二人の元大統領に対する恩赦建議論争が新年早々、政治界限に大きな波紋を呼んでいる。

政治界限において、どういう結論が下されようともハッキリさせておきたいことがある。私は2016年～2017年にかけて20回以上にわたったキャンドル集会に、一度たりとも欠かさず参加したキャンドル市民である。あの寒空の下で我々は共にキャンドルを掲げ、一杯の熱いお茶を分け合い、敷物を隣の人に手渡し、共に拳を突き上げ、共に通りを行進しながら独裁者に立ち向かった。そして我々は勝利し、互いに涙を分かち合った。勝利の主人公はキャンドル市民であったのだから、その内の一人である私にも言うべきことを言う資格は十分にあると思う。だから私ははっきりと言う。私は二人の元大統領を恩赦することに絶対同意しない。



●IKEAエフェクトと自らの手垢

李洛淵代表がなぜあのような発言をしたのかについて、その心中を知ることにはできない。しかし、どのような政治的理由があったとしても李代表が最も肝心なことを見落としているという考えは打ち消しようがない。

行動経済学理論の中で「IKEAエフェクト」なるものがある。IKEAは世界的な人気を誇るスウェーデン発祥の家具量販店だ。IKEAが成功した秘訣は販売価格が20%ほど安価である代わりに完成品ではなく、未完成品が配達される。家具を組み立てるのは消費者である。

ハーバード大学経済大学院のマイケル・ノートン教授がある実験を行っている。ノートンは治験者たちに折り紙をやらせ、完成した折り紙の作品を回収した後、それらを競売にかけた。たかが折り紙作品を競売にかけるだって？金を払ってまでそんなものを買う人間がどこにいるのか？

ところが驚くべきことが起こった。折り紙を折った治験者まさにその人たちが、自らが折った折り紙作品を買うため競売価格以上の上乗せ額を払うほどまでに熱を上げたのである。

これに対する行動経済学の解釈はこうだ。折り

紙作品自体には何の価値もない。ところが人間は自分の手で作った物品に極めて強い愛着を覚える傾向がある。治験者たちが自作の折り紙作品を買うために、上乗せ額まで支払う理由がここにあるのだ。IKEAがなぜ世界的成功を収めたのか？20%ほど安価であることが真の理由ではない。消費者が自ら組み立てることによって、その家具に強い愛情を覚えるということが核心である。IKEAは消費者に「自らの手垢が染みついた製品」を提供し、消費者はその製品にこの上ない満足を覚えるのだ。

まさにこれが李代表の見落とし部分であると私は考える。断言するが、キャンドル市民たちの

反発は李代表が想像するよりももの凄く強いだろう。なぜなら李明博、朴槿恵二人の元大統領は検察や警察が拘束したのではなく、我々の手で直接捕まえたからである。

全国各地の大通りには未だ2016年～2017年の冬に残した我々の手垢が染みついている。ソウルの

光化門、光州の錦南路、釜山の西面、全国至る所で我々はキャンドルを掲げた。キャンドルはいかなる政治勢力の闘争でもなく、我々の闘争であったのだ。ノートンの言葉通り、キャンドル闘争は我々の自負心を高め、高められた自負心は歴史を発展させる原動力となった。我々にとってキャンドルは、他の何物にも代えがたい大切な存在なのだ。

それなのに何を与党の代表が恩赦について言及するのか？一体誰に許可を得たのだ？キャンドルを掲げた我々に許可を得たのか？キャンドル市民に問うこともなく押し進める与党代表による恩赦建議の推進に関し、私は断固として同意しない。市民の手垢、市民のキャンドルによって耕された革命の成果を、市民の同意なしに握り潰そうとするな。我々の手で直接引きずり下ろした李明博・朴槿恵の恩赦に関する決定権は政治家ではなく、まさに我々市民の手にあるということだ。

(韓国インターネット新聞 民衆の声2021年1月3日付 “イ・ウァンベの協同経済学”より)。

▲朴槿恵退陣を求めるキャンドル集会

【新会員からの抱負】 私が韓統連で叶えたいこと

車有悟(チャ・ユオ)

アンニョンハシムニカ。昨年12月に韓統連大阪本部に正式に加入しました車有悟と申します。私は在日韓国人3世です。4世の人たちも同世代に多いですが、祖父が二人とも日本にいる親戚に養子として渡った人ですので、32歳、1989年1月生まれの在日3世です。

私は縁あって韓青京都本部の常任委員を経験し、最後は韓青中央本部宣伝部員として活動しました。丸8年、足掛け9年の長い間、悩みながら続けてきました。

「人間は疎外される動物である」。マックス・ウェーバーが言っています。

日本において、くりかえされる差別とはどこから生まれるのでしょうか。私は地理的な状況や言葉の壁が理由に上がるのではないかと思います。しかし、今はテクノロジーが人間の知恵を追い越して、距離も言語の壁も破れるように思います。

韓国料理も流行り、音楽・映画も流行っているのに在日の差別がまだある。それはなぜか。韓米日の軍事同盟が韓国をアメリカ経済従属に陥らせ、駐韓米軍によって分断も固定化されています。私はそれこそ差別の原因だと思います。まさに韓米日の軍事同盟こそが朝日関係、韓日の歴史問題に矛盾となって現れているのです。分断で苦しんでいる人がたくさんいます。在日もそうです。過去から今に至るまで分断で疲れ切っています。

日本が朝鮮を見下したまま戦後を過ごしてきて、韓国と朝鮮が手を取り合う時代になっても、戦争の加害に向き合わないばかりか、敵意を向けてきています。日本から言わないといけないこともあると思います。

ここ何年かで在日の統一観も発展してきたように思います。あとは外国の政府に左右されず、南北統一を推し進めていく必要があります。なにも変化がない、苦しい時でも南北合意を果たしていかなければなりません。

韓青の8年間、2つの祖国を愛し、ここまで活動をやってきました。努力してみんなの関心が統

一や祖国に向くようにしていました。日本全国で統一祖国を希求するイベントが行われたことと思います。在日の準備は整っています。

「朝鮮戦争を終結しましょう」。それこそが私の目標です。統一の一步手前、朝鮮戦争の終結です。「暴力を拵げず鞘に収めましょう」。それには日本の自衛隊のあり方や在日の地位、北部祖国への賠償も話し合う必要があります。北部祖国の核開発や日本人拉致をあげて話し合いに応じていないのは日本です。北部祖国との話し合いに応じてさせるためにも声をあげなければと感じています。

早急な課題として「ネットワークをつなぐこと」「ピースメーカーとなること」を上げたいと思います。アメリカの大統領が平和協定の調印式に出てくるか、日本が謝罪し、国のあり方を変えていくか、偏見を見直すか、民間の統一運動が柱になっていることがたくさんあるんです。そうしたことにも努力していきたいと思います。

あとは「あなたの民族学校はどこですか？」と訊かれたら、私は「韓青です」と答えます。愛国精神は習うものではありません。自ら身につけるものです。人生を賭けて祖国統一にこれからも向き合おうと思っています。ですから、ウリマル(母国語)や歴史の勉強を韓青のとき以上にしないと行けないし、努力をしていきたい。ウリマルで歴史を語れるくらいが目標です。

大事なことは確信と真理に導かれながらネットワークを拡げて行動することです。大阪で活動しながら朝鮮戦争を終息させ、平和協定を締結させていく、そのような活動がしたいです。

多くの在日同胞と祖国の活動家、地域のみなさんと統一運動をしていきたいです。これから宜しくお願い致します。



2021年韓青運動の決意

在日韓国青年同盟中央本部委員長 韓成祐(ハン・ソウ)

昨年11月、在日韓国青年同盟(韓青)は第27次中央大会を開催し、韓成祐新委員長を中心とする新執行部が発足しました。今号では韓成祐委員長から、2021年の抱負を送って頂きましたので掲載します。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大、いわゆるコロナ禍が世界規模で人々の生活に大きな打撃を与え、韓青活動においてもあらゆる面で制限せざるを得なくなった一年になりました。2021年は、皆様に健康と安寧が訪れることを祈念しております。

昨年は私たちの祖国、朝鮮半島でも人的・物的往来が制限せざるを得ない状況になり、南北関係は以前にも増して冷え込み、緊張と衝突が相次いだ年になりました。

一方で米国が韓米ワーキンググループを通じて韓国への圧力を強め、コロナ禍においても韓米合同軍事演習を強行するなど、朝鮮半島の平和を棄損する動きが継続されています。

年始には、文在寅大統領と金正恩委員長がそれぞれ所信を表明しましたが、分断の歴史を紐解いても膠着した南北関係を切り拓いてきたのは、いつも民衆の力でした。今日においても韓国の青年が街頭に立ち、統一の障害になっている韓米合同軍事演習中止、国家保安法廃止を要求する運動を力強く繰り広げています。南北の民衆と直接連帯することが難しい状況にはありますが、在日韓国人の立場、青年の立場だからこそできる統一運動を、私たち韓青が先頭に立って実践していく決意です。

私たち韓青は昨年11月に第27次定期大会を開催し、第26期の6年半を総括し、新たに第27期執行部を発足させました。第27期方針として、▲4・27板門店宣言、9月ピョンヤン共同宣言を支持し、自主平和統一新時代を切り拓こう！▲反米自主闘争に主体的に取り組み、祖国の自主と在日韓国人青年の民族的解放を勝ち取ろう！▲日本の差別排外政策に反対し、在日韓国人青年が民族的に生きることができる社会を作ろう！▲2020年代を見据えた組織全体の世代交代、体制正常化を勝ち取ろう！の4項目からなる

新方針を採択し、新時代の韓青組織、青年運動を創造していくことを決意しました。

コロナ禍で規模を大幅に縮小せざるを得ない中での大会開催でしたが、青年たちの「仲間に会いたい」「民族的に生きたい」という熱が冷めることはありませんでした。それら青年たちの微かな叫びを拾い集め、「在日韓国人として生まれてきて良かった」と心から言える世の中を目指し、第27期韓青は、今後も青年らしく闘い抜くことを誓います。

2021年は昨年開催することができなかった「韓青結成60周年記念事業」の開催を頂点とし、組織と運動を前進させる計画を立てています。結成60周年に際して在日韓国青年同盟のこれまでの歩みを振り返ると同時に、今を生きる在日韓国人青年たちにとっての祖国と民族観、韓青の歴史を継承し、これからどう歩んでいくのかなど60周年記念事業を通じて、2020年代の韓青組織、青年愛国運動を表現したいと考えています。ぜひともご期待ください。

最後に、皆様においても大変な状況にはありますが、私たち韓青は青年らしく生き活きと活動することで、社会に希望を発信していきたいと考えています。今年も変わらぬご支援、ご指導のほど、よろしく願い申し上げます。



【コラム】

かつて開川と呼ばれた清溪川

「行く川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず（『方丈記』）」。

かつて都市の近代化とは川を殺すことだった。江戸時代、堀を縦横に整備した「水の都」大阪も明治以降、長い治水事業の歴史の中で、多くの川が暗渠となり、また埋め立てられていった。八百八橋がかかっていた多くの堀、鯉江川、千間川、猫間川、曾根崎川…消えてしまった川はいくつもある。

高潮や洪水に悩まされてきた大阪としては、川を埋めるのはやむを得ないことだった。また高度成長期に増大した自動車の交通量に対応すべく、より大きな道路が必要だった事情もあった。今も多く残る「～橋」の地名が、かつての水都を想うよすがとなっている。

ソウルの近代化も似たような道を辿った。ソウル北部の旧市街を東西に貫く清溪川も暗渠となり果て、上部に高架道路が建てられた。それはソウルの近代化の一側面と言える。

もともと清溪川は、古くから人の手が加えられてきた河川だった。朝鮮王朝が始まってまもなく漢陽（ソウル）に遷都したのは1394年（太祖3年）。当時、漢陽を取り巻く北岳山、仁王山、南山から流れる水を集め、盆地を曲がりくねりながら漢江へと流れていく川があった。それは春と秋に水が枯れ、夏は大雨で溢れるという実に面倒くさい川だった。この首都の河川を整備することは当時の国家課題の一つとなった。

1411年（太宗11年）、開渠都監という臨時官庁が作られ、川を渡る石橋と両岸の堤防が築かれた。多くの人々の労役により、川床が深く掘られた川は、やがて「開川」と呼ばれるようになった。後の清溪川である。

しかし、生活河川として利用されるようになった開川は、しばしばその汚れが問題になった。世宗代、次のような議論があった。「世宗二十六年（1444年）、李賢老（集賢殿修撰）が風水説を論じ、都の川に汚物を捨てることを禁じて、明堂の水を清くすることを請願した」（『新增東国

輿地勝覧』）。

漢陽は風水の吉凶を踏まえて設計された明堂の地であり、そこに流れる開川が汚れることは、凶兆になりうると論じたのだ。この請願に対しては「都は人が集まる場所であり、人が集まれば汚物も溜まる。これらを流す河川が必要であり、そしてその水が清らかであるはずがない」と反論が出され、国王世宗はその反論を是とした。開川の汚れが朝廷で論じられるほど問題となっていたことが分かる。

長い歳月で整備された川も土砂が川床に溜まり、石橋も埋もれるようになっていく。これに対処して1760年（英祖36年）、大規模な浚渫工事が行われた。



▲清溪川広場の滝

臨時官庁の濬川司を設け、川の流れを整理し、積石と植樹で護岸を行った。曲がりくねっていた川が直線化されたのもこの頃だと考えられる。

やがて川は、その支流の一つであるソウル白雲洞の清風溪川の名を取って「清溪川」と呼ばれるようになる。戦後

にはソウルの人口が増大するに伴い、清溪川の水質が急激に悪化。1958年から20年近く工事が行われ、清溪川は蓋で覆われて「清溪高架道路」が完成した。

そして2002年から清溪川復元工事が始まり、現在、皆が知るような清溪川へと生まれ変わった。

しかし前述の通り、かつての清溪川はソウルの山々から流れる複数の支流が水源だった。今、我々の目で確認できる川の始点は、清溪川広場から噴出して滝となる水の流れだけだ。さらに言えば、紫陽取水場から汲み上げた漢江の水こそが現在の水源であり、清溪川を流れて再び漢江へと帰っていく水だ。

現在の清溪川は自然河川ではなく、人工の親水公園となった。しかし、それはソウルが首都になった時から、人の手によって整備されてきたこの川の宿命ともいえるだろう。もとの水にあらずとも、清溪川は今も流れ続けている。やがては人の手により新たな姿を手に入れることだろう。

（好）

【韓国ドラマ】

緑豆の花

朝鮮半島の歴史で「緑豆」といえば、甲午農民戦争を指揮した「緑豆將軍」こと全琫準(チョン・ボンジュン)の名前が挙がります。今回紹介する韓国ドラマ「緑豆の花」は、甲午農民戦争時代の物語です。残念なのはこのドラマ、全琫準が主役ではなく、準主役として登場し、主役は異母兄弟です。しかしながら私は主役の兄弟よりも、全琫準を中心にドラマを見ました。

物語の舞台は1894年全羅道・古阜(コブ)。父親が使用人に産ませた長男イガンは周りから「あれ」と呼ばれ、父親の汚れ仕事を手伝っています。一方、本妻の子として生まれた次男イヒョンは留学していた日本から戻り、朝鮮が日本より遅れていることを実感します。

イガンは農民たちに暴力をふるい、農民たちから反感を買う中、ある日全琫準と出会い、自らの人生を変えようと全琫準が率いる農民軍に入ります。

このドラマは全24話ですが、前半は全琫準率いる農民軍が蜂起し、各地で連戦連勝を重ね、ついに1984年6月、農民軍が朝鮮政府と結ぶ

「全州和約」までを描いています。全琫準が朝鮮政府に「全州和約」を結ぶことを伝える花火を上げる場面で、蜂起していく中で犠牲になった農民たちを想い、涙を流す場面は印象的です。

「全州和約」締結後、農民軍は故郷に戻りますが日清戦争が勃発、日本が勝利する中、全琫準は再び武装蜂起し、農民軍は日本軍と戦います。しかし近代兵器を持つ日本軍との戦いは、悲しいことに戦いではなく、一方的な日本軍の虐殺に見えます。

ドラマの後半では、次男のイヒョンが鍵を握ります。彼は日本のように朝鮮も近代化していかなくてはと強く思うがあまり、鬼という日本名を名乗り、日本の協力者となり、兄と対峙するのです。

歴史の本に全琫準が連行されていく写真がよく掲載されています。事実とは違うでしょうが、ドラマ風に写真が撮られるシーンがあります。こちらも印象的です。ドラマで流れるBGMは、もちろん「セヤ セヤ パランセヤ(鳥よ鳥よ、青い鳥)」。(ソン)



◆◆行事案内◆◆

韓統連セミナー2021 シリーズ「統一のための練習問題」その3(最終回)

統一における南の役割, 私たちの役割

日時: 3月14日(日) 午後1時30分 受付/午後2時 開会

場所: KCC会館 (地下鉄“今里駅”下車2番出口から徒歩7分)

報告: 金隆司(キム・ユソク) 韓統連大阪本部代表委員

参加費: 800円(青年学生500円)

主催: 韓統連大阪本部/問合せ090-3822-5723(崔)

※当初、2月14日に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため上記の日程に延期しました。ご了解下さい。

編集後記

新会員の車有悟君、韓成祐委員長ともに年齢は30代。若い人たちと共に活動ができると私もうれしいです。コロナ禍ですが、年明け早々明るい話題です。(ソン)